



怪猫が柩ひつぎをうばったはなし

むかしむかし、古猫が飼われていたんだとお。ところがその家の主人が亡くなって、葬式となると今まで傍らにいた猫が、ぷつぷつといどころをくらましてしまったんだとお。葬式にはたくさんさんの会葬者があり、近在にないような立派な葬式が、しずしずとその家から出たんだとお。ところが墓地への途中で一天にわかにかき曇って、その黒雲の中から夜叉(やしや)となった怪猫が現われたと思うと、その柩を黒雲の中へうばって宙づりにしてしまったんだとお。さあ大変、大騒ぎになって会葬者はあれよあれよと空中を仰ぐばかり。坊さんもこのにわかのこと肝をつぶし、どうすることも出来なかったんだとお。ところがたいそう偉い坊さんがいて、このことを聞いてとんできた。そして天に向って怪猫を説きつけ、葬式のときには必ずお前のことをお経の中に忘れずに説くから、その柩を空から